

平成19年12月1日
(2007)
第79号
毎月発行
編集
公民館だより編集室
発行
西東京市公民館

西東京市 公民館だより

田無公民館 南町5-6-11 TEL 461-1170
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 TEL 461-9825
谷戸公民館 谷戸町1-17-2 TEL 421-3855
保谷公民館 柳沢1-15-1 TEL 464-8211
住吉公民館 住吉町6-1-25 TEL 421-1125
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 TEL 424-3011

青春アカペラ甲子園 全八モネリーグ2007で優勝 ～公民館で歌っていた4人組～



左から はるかさん、めぐさん、あさこさん、みきさん

Soft Voice HPアドレス
http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=soft_voice

9月18日にフジテレビ系列で放送された「青春アカペラ甲子園 全国八モネリーグ2007」。見事優勝に輝いた4人組「Soft Voice」ソフトボイスは西東京市の公民館にも縁のあるグループです。日本語の美しさ、歌を通じた出会いの素晴らしさを伝えようと、彼女たちは今日も八モネっています。

「八モネリーグ」には全国各地から、624組の学生グループが参加。予選を経て本選に進んだのは15組です。

Soft Voiceが一次審査で歌ったのは「リン」の唄「銀座カンカン娘」の昭和歌謡曲メドレーでした。J・POPを披露するチームが多い中、異色の選曲です。

「実は歌い出したとき、声も体もガタガタ震えていました」とみきさん、あさこさん。

一次審査を通過し、残った4組での決勝。Soft Voiceは森山直太郎の「さくら」で挑みました。

リードをとっためぐさん(西

東京市在住)は、「最後まで来られたんだから、楽しんで歌おう」という仲間の言葉に、強く支えられたと言います。詞とハーモニーの美しさを大切にしていることが伝わる素晴らしいステージ。審査員のプロミュージシャンの目にも涙が浮かんでいました。

レパートリーは「赤とんぼ」や「ほたるこい」などの童謡の他、「涙そうそう」「明日があるさ」「カントリーロード」など現在約20曲。

楽譜を見て、コードを参考に試行錯誤しながらアレンジを決めていきます。アカペラの魅力については、「楽器を使わない分、人の声の暖かさがストレートに伝わるんです」。

「言葉でなかなか素直に伝えられない、感謝の気持ちなども歌で伝えられます」と、話してくれました。

自分たちが好きな「童謡」の良さも、たぐさんの皆さんに伝えられたら嬉しいと……。

これまでも老人ホームや病院に招かれて歌声を届けてきました。お年寄りや患者さんが喜んでくれる姿に、Soft Voiceも元気をもらっています。

優勝を機に出演依頼も増えていますが、地域づくりや、人々の励ましになる催しに、日本中積極的に足を運んでいます。

「みづつみの仲間も、もっと増えることを願っています」と口を揃えます。

12月8日(土)には、東久留米市の成美教育文化会館で行われる「みづつみ」のクリスマスコンサートに出演します。

に所属し、10年以上いっしょに歌い続けてきました。

「みづつみ」は旧保谷市で生まれ、43年の歴史をもつ合唱団です。現在は拠点を東久留米市に移して活動中ですが、数年前までは、毎週土曜日、ひばりが丘公民館を練習場所にしていました。

レパートリーは「赤とんぼ」や「ほたるこい」などの童謡の他、「涙そうそう」「明日があるさ」「カントリーロード」など現在約20曲。

楽譜を見て、コードを参考に試行錯誤しながらアレンジを決めていきます。アカペラの魅力については、「楽器を使わない分、人の声の暖かさがストレートに伝わるんです」。

「言葉でなかなか素直に伝えられない、感謝の気持ちなども歌で伝えられます」と、話してくれました。

自分たちが好きな「童謡」の良さも、たぐさんの皆さんに伝えられたら嬉しいと……。

これまでも老人ホームや病院に招かれて歌声を届けてきました。お年寄りや患者さんが喜んでくれる姿に、Soft Voiceも元気をもらっています。

優勝を機に出演依頼も増えていますが、地域づくりや、人々の励ましになる催しに、日本中積極的に足を運んでいます。

「みづつみの仲間も、もっと増えることを願っています」と口を揃えます。

12月8日(土)には、東久留米市の成美教育文化会館で行われる「みづつみ」のクリスマスコンサートに出演します。

サークル訪問 ～きらつとシニア 倶楽部～

印刷出版業界に関わってきた鹿島さんは編集・印刷製本にそのノウハウを駆使します。その他、情報資料集めなどそれぞれが得意な分野で力を発揮し、ひとつに結集させていきました。

9か月にも及ぶ講座と編集作業の結果、この6月には情報誌「きらつと☆シニア」が完成しました。

—今も青春—
を発刊しました。充実した内容の情報誌は、各図書館に置かれています。得られた情報は、地域とのつながり、自分を活かせる場所、そして仲間づくりと内容は広範囲です。

今年6月には編集に携わった9人によって「きらつとシニア倶楽部」を立ち上げました。

まだ発足して間もない倶楽部ですが、新たな活動として「高齢者に必要な地域情報」と題したイベントを10月29日にもれびホールで行いました。情報を収集し、アンケートをとりながら「シニアが役に立つ情報を発信してゆく」ことを目標として活動しています。

連絡先 杉山 ☎462・0589
大久保 ☎465・4870

昨年9月に芝久保公民館で「シニア情報誌づくり」の講座が開かれました。講座では地域のシニアにとって何が必要なのかを探り、

「シニアによる シニアのための コミュニティ情報誌」作りを目指しました。

メンバーが知りたいことや、培った経験を、地域に活かすことを目的に自分たちの目線で、できることから取り組みました。

「シニアにお薦めのスポーツ」を担当した袖吉さんは、自身がスポーツサイクリングを本格的に取組んで、健康を維持している経験から、ゼビサイクリングを西東京で広めてゆきたいとの抱負を語ってくれました。

シニア対象の食事宅配サービスを取材した杉山さんは、現在も食事サポートのボランティア活動を続けています。

食の専門家である濱野さん、また藤川さん、並木さんは『健康と安全な食生活』について、無農薬・減農薬食品の記事などをまとめました。地元の農家に飛び込み取材を断られたこともありました。

印刷出版業界に関わってきた鹿島さんは編集・印刷製本にそのノウハウを駆使します。その他、情報資料集めなどそれぞれが得意な分野で力を発揮し、ひとつに結集させていきました。

9か月にも及ぶ講座と編集作業の結果、この6月には情報誌「きらつと☆シニア」が完成しました。

—今も青春—
を発刊しました。充実した内容の情報誌は、各図書館に置かれています。得られた情報は、地域とのつながり、自分を活かせる場所、そして仲間づくりと内容は広範囲です。

今年6月には編集に携わった9人によって「きらつとシニア倶楽部」を立ち上げました。

まだ発足して間もない倶楽部ですが、新たな活動として「高齢者に必要な地域情報」と題したイベントを10月29日にもれびホールで行いました。情報を収集し、アンケートをとりながら「シニアが役に立つ情報を発信してゆく」ことを目標として活動しています。

